

農業と水

五月、今年も忙しい時期がやってきた。もう田植えである。田植えをするには、大量の水を田んぼに入れなければならぬ。その水は主に川から水路へそして田んぼへという形で水を入れていく。しかし、川の水はほかの田んぼの持ち主も使っている。つまり川の水だけでは十分に水を田んぼにためることができないのである。そんな時祖父や祖母は、「雨、降らんかのう。雨降ってくれたらうれしいのに。」

とよく言う。僕も田んぼを手伝っている。その気持ちはよく分かる。だから水不足の年は今年も田植えができるだろうかと心配になる。幸いにもその年は水不足だったが雨が降り、田植えをすることができた。まさに恵みの雨だった。

山添村立山添中学校 三年

奥中 俊寿

また僕の家では畑で野菜を作っている。よく水を使うのが作物を植えた直後と暑い夏の時期である。おいしい野菜を育てるには水が必ずいる。でも家の畑の近くには水道がない。そのため畑には、近所の人からもらった大きなタンクに水をため、作物の水やりに使っている。しかし、タンクの水は使ってゆくと少なくなってしまうし、雨が降らないと、タンクに水がたまらない。そしてついに恐ろしいことが起きた。タンクの水がなくなり、雨が降らなかつたのである。畑の農作物はその姿を変えていった。赤い実を付け、空に向かって伸びていったトマトも、地面にはうように姿をくずしてゆき、キュウリの青々とした葉も黄色くしておれてしまった。

祖母が言った。

「何これ降らんの、ここまで育てたのに、水やってもつやろか。」

そして畑から離れた所からじょうろに水を入れ、坂道を上って水やりをした。その年の夏野菜は例年と比べ食卓にならぶのが少なかった。僕は水が家庭の食事をこんな左右するとは思ってもいなかった。その年は親せきの人から野菜をもらっていたけど、やっぱり自家製のものが一番だ。

最近、田んぼの横の川を見に行った。きれいだなあと思つて帰ろうとした瞬間、川のはしの方にぶくぶくと泡がたっていた。最初は水の泡かなと思つてさわってみた。しかし、ぬるつとした感触だった。におつてみると洗剤の泡だった。えっ、どうしてここにあるのと思つた。もう少し注意深く見ると、タバコの吸いガラや、ビニール袋までもが捨てられていた。なぜこんなことをしたの、誰がしたの、そう思いながら、僕は自然とそのゴミをビニール袋に回収した。川はきれいになつたけど、僕の心はすっきりしなかつた。このゴミを捨てたのは間違いなく人間だ。なぜ捨てたのか、それは他分、めんどくさいからだ

思う。僕もそんなことを時々思うからである。しかしめんどくさいからといって川などに捨てて良いだろうか。それは絶対に良くないことだ。川の水は汚れるし、ゴミは増えるし、それが海に行くと海の生物にも影響をあたえるからだ。

人は水がなければ決して生きてゆけない。だから一人一人が平気でゴミを捨てない、お風呂の水や、米とぎ水を普段の生活に再利用する。そういつたことをしてきれいな水を守つてゆかなければならない。一番大切なことは一人一人が意識して行動することである。